

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: モリタガッタパーチャポイント
会社名	: 株式会社 モリタ
住所	: 〒564-8650 大阪府吹田市垂水町 3 丁目 33 番 18 号
担当部門	: —
電話番号	: 06-6380-2525
FAX 番号	: —
緊急連絡電話番号	: 0800-222-8020(お客様相談センター)
整理番号	: S-630-01
推奨用途及び使用上の制限	: 歯科用根管充填材料

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性	: 可燃性固体 ; 分類できない 自然発火性固体 ; 分類できない 自然発熱性化学品 ; 分類できない
健康有害性	: 急性毒性(経口) ; 分類できない 急性毒性(経皮) ; 分類できない 急性毒性(吸入) ; 分類できない 皮膚腐食性及び刺激性 ; 分類できない 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 ; 分類できない 呼吸器感作性 ; 分類できない 皮膚感作性 ; 分類できない 生殖細胞変異原性 ; 分類できない 発がん性 ; 分類できない 生殖毒性 ; 区分 2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) ; 区分 1 (呼吸器系、全身毒性) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) ; 区分 1 (呼吸器系) 吸引性呼吸器有害性 ; 分類できない
環境有害性	: 水生環境有害性(急性) ; 区分 1 水生環境有害性(長期間) ; 区分 1 オゾン層への有害性 ; 分類できない (追記)混合物の約 20%は水生環境有害性が不明の成分である。

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

- : 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- : 臓器(呼吸器系、全身毒性)の障害
- : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器系)の障害
- : 水生生物に非常に強い毒性
- : 長期継続の影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き :

〔安全対策〕

- ： ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ： ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ： ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ： ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ： ・取扱い後は手及び眼をよく洗うこと。
- ： ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ： ・環境への放出を避けること。

〔応急措置〕

- ： ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
- ： ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- ： ・気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- ： ・漏出物を回収すること。

〔保管〕

- ： ・施錠して保管すること。

〔廃棄〕

- ： ・内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分	濃度範囲(%)	化学式	官報公示整理番号	CAS No.
酸化亜鉛	63～69	ZnO	1-561(化審法・安衛法)	1314-13-2
硫酸バリウム	10.5～11.5	BaSO ₄	1-89(化審法・安衛法)	7727-43-7
ステアリン酸	2.66～2.9	C ₁₈ H ₃₆ O ₂	2-608(化審法・安衛法)	57-11-4
ガタパーチャ	19～21	—	非開示	非開示

4. 応急措置

吸入した場合

- ： 気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布等で覆って保温し安静に保つ。
- 呼吸困難に陥った場合は、衣類を緩め気道を確保した上で酸素吸入あるいは人工呼吸を施す。
- 必要に応じて、医療措置を受ける。

皮膚に付着した場合

- ： 付着した部分は最低 15 分間流水でよく洗い落とす。
- 痒み、痛み等、皮膚に異状が生じた場合は医師の診察を受ける。

眼に入った場合

- ： 清浄な多量の水で最低 15 分間眼を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。
- 洗眼の際、まぶたを指でよく開き、眼球のすみずみまでよく水が行きわたるように眼を上下左右に動かす。
- 痒み、痛み等、眼に異状が生じた場合は医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合

- ： 無理に吐かせてはならない。
- 嘔吐が自然に起こった場合は、気管に入らないように身体を傾ける。
- 必要に応じて、医療措置を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 耐アルコール性泡、二酸化炭素、水噴霧、乾燥砂、土等
- 使ってはならない消火剤 : 特になし
- 火災時の特有の危険有害性 : 煙、フェーム（一酸化炭素等）が発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 周辺火災の場合は、周辺の設備などに散水して冷却する。
移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
安全な場所から消火活動を行う。
消火水や希积水の流出により環境汚染を引き起こさないように注意する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業は必ず自給式呼吸器等の保護具を着用し、風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置
- : ※必要に応じて以下の措置を取る。
 - 風下で回収作業をしてはならない。
 - 回収作業の際には保護具を着用すること。
 - 「8. ばく露防止及び保護措置」の記載に準じた保護具を着用すること。
- 環境に対する注意事項 : 土壌に飛散させてはならない。下水、河川、排水溝等に廃棄してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材
- : 回収物は「13. 廃棄上の注意」の項の記載に準じて処分する。
 - 本製品は、医療廃棄物として処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : 粉じんの吸入及び皮膚との接触は極力避ける。
ばく露のおそれがある場合には、適切な保護具を着用する。
換気の良い場所で取扱う。
作業後は石けんを用いて手洗いや洗顔を励行する。
- 保管 : 直射日光及び高温を避け、乾燥した換気のよい冷暗所に保存する。
湿気を避ける。
混触危険物質から離して保管する。(10項参照)

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 必要に応じて適切な一般換気装置を設置する。
取扱い場所近くに、洗眼器および身体洗浄シャワーを設置するのが望ましい。
- 管理濃度 作業環境評価基準 : (参考)
土石、岩石、鉱物、金属又は炭素の粉じん
※粉じんの管理濃度は次式により算定される。

$$E = 3.0 \div (1.19 \times Q + 1)$$
E : 管理濃度 (mg/m³)
Q : 当該粉じんの遊離けい酸含有率 (%)

許容濃度

- 日本産業衛生学会
(2018) ¹⁾ : 第2種粉塵 吸入性粉塵 1mg/m³ 総粉塵 4mg/m³ (酸化亜鉛)
第3種粉塵 吸入性粉塵 2mg/m³ 総粉塵 8mg/m³
(硫酸バリウム; その他の無機及び有機粉塵として)
- ACGIH-TLV(2018) ²⁾ : (TWA)2 mg/m³ (R) (STEL)10 mg/m³ (R) (酸化亜鉛)
(TWA)5 mg/m³ (I) (結晶性シリカ含有率が<1%で石綿を含まない粒子状物質濃度) (硫酸バリウム)
(TWA)0.0001 mg/m³ (I) (ガタパーチャ: 天然ゴムラテックス、吸入アレルギーたんぱく質として)
(TWA): 時間荷重平均値(8時間)、
(STEL): 短時間ばく露許容濃度(15分間)、
(R): Respirable fraction
(I): Inhalable fraction

保護具

- : ※必要に応じて以下を使用する。
- 呼吸用保護具 : 適切な呼吸用保護具(防塵マスク等)
- 手の保護具 : 耐薬品性の保護手袋
- 眼の保護具 : 保護眼鏡、ゴーグル等
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護服

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 : ピンク色の固体(円錐)
- 臭い : 無臭
- 融点 : データなし
- pH : データなし
- 沸点 : データなし
- 引火点 : データなし
- 蒸発速度 : データなし
- 燃焼又は爆発範囲の上限・下限 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 蒸気密度 : データなし
- 密度 : 2.7 g/cm³
- 発火温度 : データなし
- 水溶解度 : データなし

(参考データ)³⁾

- 引火点 : 196°C(ステアリン酸)
- 蒸気圧 : 133Pa(174°C)(ステアリン酸)
- 密度 : 5.6g/cm³(酸化亜鉛)、4.5g/cm³(硫酸バリウム)
- 比重 : 0.94-0.83(ステアリン酸)
- 発火温度 : 395°C(ステアリン酸)
- 水溶解度 : 溶けない(酸化亜鉛、硫酸バリウム、ステアリン酸)
- 融点・凝固点 : 1975°C(酸化亜鉛)、69-72°C(ステアリン酸)

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の手扱い条件においては安定。
- 危険有害反応可能性 : 混触危険物質に触れると反応するおそれがある。
- 避けるべき条件 : 直射日光、高温、湿気
- 混触危険物質 : 可燃性物質、還元剤、アルミニウム粉末、マグネシウム粉末、塩素化ゴム

危険有害な分解生成物 : 熱分解や燃焼によって、煙、フェーム（一酸化炭素等）が発生するおそれがある。

1.1. 有害性情報

急性毒性

[経口毒性]	:			
・ 酸化亜鉛	;	ラット	LD ₅₀	> 5000 mg/kg ⁴⁾
・ ステアリン酸	;	ラット	LD ₅₀	4600 mg/kg ⁵⁾
[経皮毒性]	:			
・ 酸化亜鉛	;	ウサギ	LD ₅₀	> 5000 mg/kg ⁴⁾
・ ステアリン酸	;	ウサギ	LD ₅₀	> 5000 mg/kg ⁵⁾
[吸入毒性]	:			
・ 酸化亜鉛	;	ラット	LC ₅₀	> 5.7 mg/L ⁴⁾

LD₅₀: 半数致死用量、LC₅₀: 半数致死濃度

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 :
 ・ 酸化亜鉛 ; ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、刺激性を示さなかった。⁴⁾
 ・ ステアリン酸 ; ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、中等度の刺激性を示した。⁵⁾

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:

・ 酸化亜鉛 ; ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、刺激性を示さなかった。⁴⁾

呼吸器感作性 : 成分のデータなし

皮膚感作性 :

・ 酸化亜鉛 ; モルモットを用いた皮膚感作性試験の結果、陰性だった。⁴⁾

生殖細胞変異原性 : 成分のデータなし

発がん性 :

・ 酸化亜鉛 ; EPA: I、II（発がん性を評価する情報が不十分）²⁾

生殖毒性 :

・ 酸化亜鉛 ; ラットを用いた生殖毒性試験の結果、胎児への悪影響が認められた。⁴⁾

特定標的臓器毒性(単回ばく露) :

・ 酸化亜鉛 ; 呼吸器系、全身毒性への障害が報告されている。⁵⁾

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

・ ステアリン酸 ; 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系への障害が報告されている。⁵⁾

吸引性呼吸器有害性 : 成分のデータなし

その他の情報 : 特になし

1.2. 環境影響情報

生態毒性 :

- ・ 酸化亜鉛 ; 水生生物に対して極めて有毒である。⁴⁾
 長期継続的影響によって水生生物に対して極めて有毒である。⁴⁾
 材シニコ LC₅₀(48h) 0.0098 mg/L ⁴⁾
 藻類 NOEC(72h) 0.024 mg/L ⁴⁾
- ・ 硫酸バリウム ; 水生生物に対して有害である。⁴⁾
 長期継続的影響によって水生生物に対して有害である。⁴⁾
 材シニコ EC₅₀(48h) 32 mg/L ⁴⁾

残留性・分解性	: 成分のデータなし
生体蓄積性	:
・酸化亜鉛	: 既存化学物質安全性点検で、低濃縮性と判定されている。 ⁶⁾
土壤中の移動性	: 成分のデータなし
オゾン層への有害性	: 成分のデータなし
その他の情報	: 特になし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 土壌に飛散させたり、下水、河川等に流してはならない。 多量の場合は認可を受けた専門業者に委託する。 関係法令を遵守し、自治体の指示に従うこと。
汚染容器及び包装	: 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	: 3077
品名(国連輸送名)	: 環境有害物質、固体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	: 9(環境有害性物質を含むその他の有害性物質及び物品)
容器等級	: III
応急措置指針番号	: 171
海洋汚染物質	: 該当(製品)
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	: 船舶又は航空機で輸送する場合は「UN」マーク入り容器を使用し標札を表示する。 車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人に必要に応じて、運送注意書(イエローカード)を渡す。 容器の破損、洩れ、栓の閉まり具合を確かめ、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。 積み下ろし作業の際は、サイドブレーキをかけ、エンジンを停止させ、車止めを施す。 火気厳禁で取り扱うこと。 「7. 取り扱い及び保管上の注意」の記載に準じて取扱う。 輸送関係法規を厳守する。

1 5. 適用法令

消 防 法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(リスクアセスメント対象) (名称等を表示すべき危険物及び有害物)(酸化亜鉛) (名称等を通知すべき危険物及び有害物)(酸化亜鉛)
毒劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 非該当
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(酸化亜鉛 法文名: 亜鉛及びその化合物)
水質汚濁防止法	: 指定物質(酸化亜鉛 法文名: 亜鉛及びその化合物)
※粉じんを発生させる作業が発生する場合には、以下の法律に該当する場合がある。	
労働安全衛生法	: 粉じん障害防止規則(粉じん則)
じん肺法	: 健康管理の対象となる粉じん作業

16. その他の情報

引用文献:

- 1) 「許容濃度等の勧告(2018年度)」; 産衛誌 60巻
- 2) 2018 Guide to Occupational Exposure Values (ACGIH)
- 3) 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版(国立医薬品食品衛生研究所(NIHS))
- 4) GHS分類結果データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- 5) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (CCOHS)
- 6) 化審法データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

記載内容問い合わせ先 : お客様相談センター
フリーコール 0800-222-8020(無料)
携帯・PHP 06-7664-8080(有料)
FAX番号 0800-222-6480
電子メール e-customer@morita.com

ここに記載された情報は、弊社データを含め種々の技術出版物にあるデータに従ったものです。必要かつ安全な取扱いを決定する場合には、使用者がその責任においてこの情報の利用をお決め下さい。なお、ここに記載された情報は、作成時点では弊社の調査による最新の情報に基づき作成されたものですが、法律、規制等の改正、新たな毒性試験結果の発表等により、改訂がありうることをご承知下さい。